

奈川の三十四萬八千餘人、兵庫の二十九萬七千餘人、愛知の三十萬三千餘人、福岡の三十三萬八千餘人を擧げることが出来るのでありまして何れも増加の割合は一割以上であります。

前回昭和十年に比し却つて減少を來してゐるのは滋賀、長野、福井、石川、鳥取、島根、岡山、徳島、香川、高知、大分、熊本、鹿児島、沖繩の十四縣であります。其の中減少の著しいのは石川、徳島、香川、熊本、沖繩の諸縣でありまして、一萬八千人乃至一萬人程度を減じて居ります。以上人口を減少してゐる縣の地理的分布を見ますと、何れも東京以西に在るのが注目せられます。尙從來府縣人口の減少する例は少く、昭和五年に比し昭和十年に於て人口數の減少を見たのは長野、高知、佐賀の三縣に過ぎなかつたが、今回は前に述べた様に十四縣にも及んで居ります。これは近年人口の地域的移動が激しくなつたことを物語つて居ると解して宜からうと思はれます。

内地の各市について見ますと、昭和十年に比し増加率の高いのは尼崎市の一五四%、川崎市の九四%、川口市の八〇%、室蘭市の六五%増等が著しいものであります。

尙六大都市について見ますと昭和十年に比し今次調査に於ける人口増加は次の如くであります。即ち増加の最も多いのは東京市であり、増加率の最も高いのは横浜市であります。一方、京都市の人口は殆んど増加してゐないと云つてもよからうと思はれます。

内地の人口を市部人口と郡部人口とに區分しますと市部人口は二千七百五十七萬七千餘人、郡部人口は四千五百五十三萬六千人餘であります。即ち市部人口は

内地人口の約三割八歩を占め約六割二歩が郡部人口となつて居ります。

昭和十五年	昭和十年	昭和十年に對する增加率	
		增加數	%
東京市 六七八、〇四	五八七、五七	九〇、三二七	一五、四〇
京都市 二〇九、七六	一〇〇、五三	九三、三三	〇、八
大阪市 三、五三、四〇	二、九八、八七	二、六、四六	八、八
横浜市 六八、〇九	七四、二九〇	二、六、八一	三、七五
神戸市 九七、三三	九三、二七九	五、〇五	六、〇
名古屋市 一、三六、〇四	一、〇六、八六	二、四、二六八	三、七
昭和十五年國勢調査人口確定數			
内地	七、二四、三〇八	三、五、五〇、〇	三、六、四八、二九八
朝鮮	二、四、三、三三七	二、三、六、三三〇	二、三、〇、〇九七
臺灣	五、八、七、〇八一	二、九、〇、六五五	二、九、〇、四七九
樺太	四、四、八、九一	三、九、八、三五	一、七、五、〇五
關東州	一、六、七、三三	七、八、一、九三	五、八、五、七四二
南洋群島	一、三、一、二五七	七、八、一、四〇	五、八、六、一七
合計	一〇、五、三、六一〇	五、三、八、六、八二	五、三、三、九、三三九

### 日本統計學會第十一回總會の開催

日本統計學會第十一回總會は昭和十六年四月四、五、六の三日間に互り東京慶應義塾大學に於て開催されたが、斯學關係の出席者五十名、別掲所載の如き研究報告が行はれた。本人口問題研究所よりも館研究官出席刻下の緊急課題たる國土計畫設定への重要資料たるべき都市の人口的背地決定に關する研究報告を行つた。

尙、四月四日の總會に於てはその統計學界に竭され

たる功績顯著なるの故を以て法學博士高野岩三郎、農學博士・法學博士高岡熊雄、商學博士藤本幸太郎、長谷川起夫の四氏を當學會の名譽會員に推擧した。

日本統計學會第十一回總會  
研究報告題名及報告者氏名

生産數量指數の經濟的意味

東京商大 山田 勇

統計に於ける定差法の應用

神戸商大 水谷 一雄

西半球主義に於ける若干の統計問題

柳父 德太郎

出產統計に關する二、三の問題

大阪帝大醫學部 丸山 博

應用統計學の性質に就て

慶大 寺尾 琢磨

日本景氣指數

高松商大 北條 時重

都市配置に關する人口的背地決定の方法及び其の奧羽地方若干の都市への適用例。

人口問題研究所 館 稔

題未定

東京商大 中山 伊知郎

時系列函數關係の誘出

神戸商大 家本 秀太郎

題未定

大阪商大 豊 崎 稔

社會調査の方法に就て

慶大 奥井 復太郎

國民所得の統計的研究(共同報告)

國民所得概念 同志社大學 宗 藤 圭 三

國民所得の推計 横濱商會 森田優三  
國民所得分配状態に關する初期の諸研究 關西學院 田村市郎

國民所得の分配と所得稅統計の改正 京都帝大 汐見三郎

國民所得の統計的研究(共同報告)續き 早川三代治

ケインズ理論の實證的研究若干 神戸商大 水谷一雄

本邦家計調査を基礎として見たる エンゲル法則 東京商大 杉本榮一

岸和田市民の所得と保健に就て 大阪帝大醫學部 丸山博

### 日本小兒保健研究會第九回總會講演會の開催

日本小兒保健研究會に於ては昭和十六年四月七日第九回總會を開催したが、同日引續き日本醫師會館講堂に於て小兒保護育成に關する講演會を開催した。その演題並に講演者氏名を掲ぐれば以下の如くである。

#### 小兒保健研究會第九回總會講演

##### 一、健康相談所に於ける一二の試み

環江邊隣館 田村俊吉  
糸賀宣三

二、都市に於ける母乳分泌狀況に關する小統計 東京市小兒保健所 高津忠夫

三、妊婦梅毒に關する調査研究 東京市保健館 本間英夫

四、農村に於ける小兒衛生に關する調査研究(第一報) 厚生科學研究所 宇留野勝正

##### 五、昭和十五年度幼兒調査成績に就て

大阪乳幼兒保護協會 吉久一  
相馬壽美江

##### 六、大阪市に於ける乳幼兒檢診の結果に就て

大阪市保健部 廣島英夫  
吉川島清夫

##### 七、昭和十三年以前及び以後各三年間の農村乳幼兒身體發育の比較に就て

愛育研究所 梅澤菊枝

##### 八、社會環境別に見たる乳幼兒の身體發育状態に就て

人口問題研究所 西野陸夫  
笠野正弘  
横田尚武

##### 九、昭和十五年度全國乳幼兒診査成績に就て

厚生省 宇田川與三郎

##### 十、「おんどの研究

愛育研究所 齋藤文雄  
宇留野勝正

##### 十一、簡易低廉を目的とせる四週間離乳法の成績に就て

育嬰協會病院 小邊貞彰  
渡邊貞

##### 十二、青森、石川、岐阜三縣下に於ける離乳期兒童實地調査(第二回)

愛育研究所 内藤壽七郎  
高口保明  
宇留野勝正  
加藤種一  
梅澤菊枝  
杉本ふみよ  
岩崎茂子  
齋藤文雄

##### 十三、三四の先天性障害と出産順位との關係

九州帝國大學 箕由貢  
松尾利茂

##### 十四、都市乳兒の消化不良症に因る死亡の事情

厚生科學研究所 齋藤 潔

##### 十五、乳幼兒の結核感染狀況と結核感染兒の豫後に關する調査成績

慶應大學 染谷 明

##### 十六、小學校に於ける虛弱兒童に關する調査成績

東京帝國大學 向後勉  
松村龍雄

##### 十七、岸和田市に於ける乳兒死亡調査

大阪市社會課 丸山 博

##### 十八、乳兒死亡豫防に就て

大阪市乳兒保護協會 大久保直穆  
佐伯 隆

### 國民優生聯盟の優生結婚資金貸付と優生結婚産兒獎勵金制度の創設

國民優生聯盟に於ては厚生省後援の下に優生結婚資金の貸付を助成してゐるが、今般更に優生結婚産兒獎勵金制度を創設した。その内容を同聯盟發表の案内書によつて示せば以下の如くである。

#### 優生結婚産兒獎勵金案内

國民優生聯盟は優生結婚を獎勵する爲め昭和十六年四月以降特に健全にして優秀な優生結婚と認められるものを申込順によつて約三百組を選び表彰し且結婚後五年以内の出産に際して祝金を差上げることに致しました。優生結婚をすることは國民の義務であり、名譽でも幸福でもありますから今後結婚される方は誰でも優生結婚をするやうに診査と指導を受けられることを